

SS講演会 報告

◇期 日：5月30日(月) 13:30～15:30

◇場 所：至誠ホール

◇参加者：2年理系・理数科学科2年生 171名、
1年探究科学科 80名 計251名

5月30日(月)に「コロナパンデミックとmRNAワクチン」と題して、新潟薬科大学客員教授でいらっしゃる古市泰宏先生による講演会があった。



古市先生は、富山大学を卒業後、薬剤師となり、約半世紀 RNA の研究に携わってこられた方だ。先生は、私たちを感染から守ってくれる、mRNA のキャップを発見され、世界的にも著名でいらっしゃる。

今回の講演では、mRNA ワクチンにおけるキャップ構造の重要性について説明して下さった。今使われているワクチンの有効性や、ワクチン内部のメカニズムについて、多くの新しい知識を得ることができた。特に、ワクチンのキャップがない場合、ワクチンの接種や、様々な重要な現象を発見できなかったことにとても驚いた。また、講演では、専門的なことだけではなく、日頃私が生きていく中で大切にすべきこと等も教えていただいた。

私はこの講演会を通して、心に残った言葉がある。それは、「目的のための研究をするのではなく、素朴な好奇心にひかれての研究をしよう」という言葉だ。この言葉を聞いたとき、私は深く共感するとともに、私もこのように行動したいと思った。自分自身の好奇心にひかれて行う研究の方が成功につながると考えられ、自分自身の成長にもつながると感じた。また、古市先生が言われていたように、悩んだときは友人を巻き込んでいくべきだとも思った。仲間と助け合い、共に切磋琢磨し、向上心を育むことが大切であることを改めて実感することができた。

これから私は、先生の言葉を胸に、高校生活をより有意義なものにするとともに、多くの経験を積み重ねていきたい。